

ときめき インタビュー



…プロフィール…

1966年11月26日生まれ、東京都出身。中学1年生のときに富士中学校へ転校、春日部共栄高校に進学。昭和58年、三遊亭圓歌（落語協会最高顧問）入門、前座名は歌ちわり。平成元年、二ツ目昇進、三遊亭歌風襲名。平成10年、真打昇進、三遊亭多歌介と改名。得意ネタは師匠の十八番、浪曲社長ほか。笑点（日本テレビ）ゲスト出演、NHK名人会（BS2）などテレビ出演も多数。

富士中学時代から始まった落語家人生

三遊亭多歌介さんが都内から越谷へ越してきたのは、中学1年生の夏休みのこと。「ちようど漫才ブームのころで『やすしきよし』や『ツービート』が大活躍してました。その影響もあって中学の「ゆとり」の時間、中の落語研究会に入部しました」新作落語を得意とし、卒業式でもステージで笑いをとっていたそうですから、このころすでに、落語家としての人生が始まっていたのかも知れません。高校へと進学したある日、担任の教師に「先生、落語家になりたいんですけれど」と相談したら、「じゃあ、早い方がいいね」とのことだったんで（笑）、そのまま大好きだった圓歌師匠のところへ弟子入りしました。昭和58年、17歳のときのことでした。

入門後、最初の名前は三遊亭歌ちわり、初高座がその翌年で、場所はなんと国立演芸場。「これまでの人生で一番緊張した体験だった」そうです。その後、平成元年に二ツ目に昇進し、三遊亭歌風を襲名、さらに平成10年には真打昇進

を果たし、名前も三遊亭多歌介へと改名して、現在、寄席はもちろん講演会などでも活躍しています。11月には母校の富士中で講演会を行い、生徒たちをたっぷりと笑わせました。

商店街を歩くのが好き

「蒧家はなつかになってからも、実家のある赤山町や瓦曾根に住んでいたことがあるんですよ」と話す多歌介さん、越谷に対する思いを聞いてみると意外にも、「昔に比べると街が整備されて暮らしやすくなっただけでしょうが、その反面ちょっと複雑な思いもありますね」という答えが返ってきました。「わたしね、商店街を歩くのが大好きなんです。仕事柄、全国のいろいろな街に行っているその街の商店街を歩いている。もちろん特色のある商店街中にはあるんですが、近ごろはどこもチェーン店ばかりが目につくようになって。時代なんですかね、ちょっと寂しいですよ」

若いときの苦労は買ってでもしろ

そんな多歌介さんに、若い人た



落語家

三遊亭多歌介さん

ちへのメッセージを伺ったところ「若いときの苦労は買ってでもしろ」ってことですかね」という答えが返ってきました。「ある方から『感謝を知らない人間は成長がない』という言葉を教えてもらいました。松下幸之助さんの言葉みたいですが、なるほどなって思いました。どういうことかというのと、「ありがと」は「有り難う」と書くように、「難」が「有る」、つまり、苦労を知ることでもあるのではないかと思っただけですね。本当の苦労を知って、はじめて感謝する心が生まれるのかもしれない

目が合う距離で落語を

い。まず自分で苦労をして、それを乗り越えていかないと成長はありませんよ」

た懐かしい人との出会いがあるかもしれない。そうやって地域が活性化すれば、それに越したことはありませんからね。落語ってというのはお互いの目と目が見える距離でやる芸です。笑っていただいているうちに皆さんの目がキラキラしてくるのが、自分にとっても何より幸せなことですから」とのこと。高座に上がる前の忙しい時間、こちらが心配するほど熱心に、そして楽しそうにお話をしてくれた多歌介さん。今後、よりいっそうの活躍を期待せずにはいられません。

苦しいときこそ明るく、前向きに。「笑い」は物事を明るく考えるための大切な力なんです。

笑いは人生を明るくする源とおっしゃる三遊亭多歌介さん。富士中学校の卒業生で、三遊亭圓歌師匠に弟子入りし、今年で真打昇進12年目。高座の前、忙しい時間の合間をぬって、池袋演芸場の楽屋でお話を伺いました。